

令和2年度 本庄市青少年健全育成のつどい



主催：本庄市青少年育成市民会議

後援：本庄市・本庄市教育委員会

本庄市青少年問題協議会

青少年育成埼玉県民会議



ごあいさつ

本庄市青少年育成市民会議

会長 芦澤 吉一

新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度の本会のスタートは多くの事業の中止を余儀なくされましたが、市内小・中学校をはじめ青少年育成関係団体の皆様のご協力により、本年度も青少年の主張、青少年健全育成標語入賞者、青少年育成功労表彰者及び表彰団体をご紹介することができました。ここに深く感謝申し上げます。

本庄市青少年育成市民会議は、青少年の健全育成に尽力している関係団体で組織しており、青少年育成埼玉県民会議に所属し、内閣府や文部科学省などの情報を得て事業の推進を図っています。

青少年をめぐるっては、いじめ、不登校、中途退学、ニート、ひきこもり、貧困など、社会生活を営む上で困難を有する青少年の問題は依然として深刻です。また、スマートフォンをはじめとする情報通信機器の普及に伴う有害情報の氾濫、ネット依存、SNSに起因する性被害などの問題も発生しています。これらの多様で複合的な問題の解決には、家庭や地域等が一体となって社会全体で青少年を見守り育てていく必要があります。

このように、青少年を取り巻く環境は厳しさを増し、困難を抱える青少年の問題が深刻化する中にあることは、青少年の健全育成の重要性は更に増していきます。

本庄市青少年育成市民会議では、青少年たちがお互いに手を携えながら、元気に笑顔で、夢の実現のために一歩踏み出す人材に育つことを願っています。ふるさとを愛しつつ、国内だけでなく世界で活躍されることを期待しています。青少年が、広い視野と正しい見識を有し、豊かな情操と思いやりの心を身に付け、たくましく未来を切り拓くことが出来るように環境を整えていくことが、私たち大人の大きな責務です。

本年度の青少年の主張には、市内の中学校の生徒から素晴らしい作品が寄せられました。次世代を担う子どもたちが、日頃考えていることを作文にして発表することにより、広い視野に立って物事を考える力を養うとともに、自分自身を見つめ直す機会となります。また、青少年自らが体験したことや感じたことを作文という形で表現し発表することは、感受性を育て成長することにつながります。

あわせて、青少年の考えを多くの人々に知っていただくことにより、青少年に対する理解を深め、青少年健全育成を推進する契機として青少年の主張を実施するものです。

さらに、青少年健全育成標語は市内小・中学校の児童・生徒から3,094点もの応募を頂きました。本庄市青少年育成市民会議で審査を慎重に行い、優秀作品を選ばせていただきましたが、どの作品も素晴らしいものでした。

また、地域の青少年育成関係者や団体より長年にわたり青少年の健全育成にご尽力している方や団体をご推薦頂き、青少年育成功労として表彰させていただきますが、今後とも変わらぬご指導をお願いいたします。

最後になりましたが、日頃より本庄市青少年育成市民会議にご理解ご協力を賜っております皆様にご感謝を申し上げ挨拶いたします。

目 次

あいさつ	1
目 次	2
青少年の主張	
感謝と努力（本庄東中学校2年 坂上 七海）	4
疑う力（本庄東中学校3年 原田 庸佑）	6
成功にないものは失敗にある（本庄西中学校2年 鄧 子良）	8
力を自分のものへ（本庄西中学校2年 佐藤 実花）	10
コロナウイルスで気づいたこと（本庄南中学校1年 伊藤 敬吾）	12
糸（本庄南中学校2年 中島 逢柚子）	14
母の教えで壁を越える（児玉中学校3年 坂本 紗菜）	16
将来のために（児玉中学校3年 根岸 大樹）	18
未来に繋ぐ（本庄第一中学校2年 茂手木 紫音）	20
社会を支える「ありがとう」（本庄第一中学校2年 中尾 優衣）	22
青少年健全育成標語入賞作品	24
青少年・青少年育成者等功労表彰	27
本庄市青少年育成市民会議の主な行事及び活動の紹介	31
本庄市青少年育成市民会議組織図	32



青少年の主張

青少年の非行やいじめが大きな社会問題として論議されているが、青少年が大人社会をどのように見ているか、将来に対してどのような夢を抱いているかを知る機会は意外に少ない。


大人が、子どもの目を通した率直な意見に耳を傾け、家庭教育や地域の教育力の向上に資することを目的に、市内全中学校に青少年の主張作文を募集したところ、5校10名の生徒の皆さんからご応募いただきましたので、ここに紹介いたします。



感謝と努力

本庄東中学校2年

さかうえ ななみ
坂上 七海



私は最近、「感謝の心」を持つことがとても大事だと思うようになりました。例えば、「ありがとう」という言葉。感謝の気持ちを伝える言葉です。普段、何気なく使っている言葉ですが、改めてインターネットで調べてみると、もともとは「めったにない」「めずらしい」を意味する「有難し」という言葉が語源だということが分かりました。

つまり、めったにないようなめずらしいことに対して、感謝や感動などを伝える言葉だったのです。それが時代と共に変化して、感謝を表す言葉になったそうです。私は、今まで何気なく使っていた「ありがとう」にこんなにも深いことが隠されていたことを知って、驚きました。

私が一番感謝の気持ちを伝えたい相手は、小さいときから私をずっと支え続けてくれた祖母です。学校から帰って、祖母の顔を見ると安心できました。日々の家事の合間に、私や兄の身の回りの世話から、学校の準備、宿題など母代りになって面倒をみてくれました。今までは、「あたりまえ」だと思っていましたが、祖母の存在は、まさに「めったにない有難いこと」だったと最近気付きました。祖母の深い愛情が、今の私を育ててくれました。本当に感謝しています。

「ありがとう」の反対語は「あたりまえ」だそうです。

今年は新型コロナウイルスの感染が世界中に広がり、日本でも学校が三か月以上も休校になりました。今まで、「あたりまえ」だと思っていた日常が一転「有難い」ことになりと変わってしまいました。

学校に行き、授業を受けて勉強できること。友達と会って、おしゃべりできること。給食を食べたり、部活動ができること。すべて、色々な人の支えがあったからできたことな

のです。「あたりまえ」の生活ができることは「幸せだな。有難いことだな。」と気付くことができました。

「いただきます」も感謝の気持ちを表す言葉です。小さい時からずっと言い続けてきた言葉ですが、単なる習慣になっていて、気持ちを込めて使っていたとはいえません。こうして考えてみる

と、日常には感謝を伝える「チャンス」が沢山ちりばめられています。これらのチャンスを逃がさず、その時々心を入れて感謝を伝えようと思います。

もう一つ大事だと思うことは「努力」です。

「自分がどんなに努力をしても、すぐに結果が出るとは限らない。結果にこだわりすぎると安全な道を選び、進歩は止まってしまう。」

日本を代表する囲碁棋士藤沢秀行さんの言葉です。今まで何に対しても楽な道を選んでしまっていた私は、この言葉にはっとしました。まさに今の自分の状態でした。私は努力をすればすぐに結果が出ると期待しすぎていたのかもしれませんが。大事なものは、結果ではなく、あえて厳しい道を選んで、そこでどれだけ努力するかだということに気付きました。

私は、自分を他人と比べてしまい、落ち込んでしまうことがよくあります。しかし、他人と比べるより、自分がどれだけ努力できるかが勝負だと思うようになりました。前に向かって努力を重ね、少しずつでも自分を成長させることが大事なことだと、考えを変えることができました。

努力も感謝も、自分の意識や考え方次第です。思うように努力できなかつたり、感謝を怠ったと気付いた時は、少し立ち止まって、自分の何がダメで、どうしてそうなったのかを考えて、次に活かせるようにしたいです。

感謝は笑顔を創り出します。感謝する人もされる人も自然と笑顔になれる。日常を笑顔で楽しく過ごすために、感謝は欠かせません。


努力は自信につながり、自信はチャレンジに、チャレンジはまた、新たな自信を生みだします。自分を成長させるために努力は必要です。これからは、厳しい道を選んでみて、自分らしくまっすぐ進んでみようと思います。



疑う力

本庄東中学校3年

はらだ ようすけ
原田 庸佑



私達の身の回りには、色々な情報が様々な場所で行き来しています。例えば、テレビ、新聞、インターネット、そして学校の教室など、いたるところで情報が飛び交っています。

特に現代は、インターネットが発達してきており、情報によるトラブルやパニックは多くの人を巻き込むことが考えられます。

最近起こった「トイレトーパー買占め騒動」ですが、原因は「デマ」だと言われています。インターネットの技術の進歩に伴い、SNS等の情報利用者数も年々増加してきています。利用者数が増えていくことで、デマは相当の速さで拡散されます。

SNSが発達してきた現代こそ、デマに注意が必要です。

また、テレビや新聞等のメディアの報道がこの騒動に油を注ぎ、多くの人がトイレトーパーを買いだめしようとしてしましました。「買占めが起こっている」と聞けば、買えなくなってしまう前に誰もが買いに行きます。

我が家でも、母がスーパーに行くたびに、わざわざトイレトーパーを探していました。売り場には、「商品は十分在庫があります。」という張り紙があつたにも関わらず、店頭に並ぶとすぐに売り切れる状態が、かなり長く続いていました。

昨今は新型コロナの影響もあり、テレビでは、感染者数の増減や最新情報が連日報道され、インターネットでも色々な情報が発信され続けています。

毎日、たくさんの新しい情報を耳にしますが、それらは本当に信頼してよいのでしょうか？

私はたくさんの情報の中から、より正しい情報を取捨選択すること、本当にその情報は

正しいのか「疑う」ことが必要だと考えるようになりました。

情報を疑うことは、新聞やテレビも例外ではありません。今までは、「ニュースで見たから確かな情報だ。」と思い込んでいましたが、そうではなく、ニュースがいつも正しいとは限らないのです。

「デマ」にしる「報道」にしる、不確かな情報が騒動の原因だといえます。だから、まず、本当かどうかを疑って、不確かな情報を確かなものにすることが大事です。

しかし、何が正しい情報なのか判断することはとても難しいと思います。だからこそ、自分にとっての「判断材料」を明確にしておくことが必要です。


私は、「トイレットペーパー騒動」を調べるにあたって、色々なサイトから情報を収集しました。そして、より多かった情報を元に、情報の確かさについて考えました。私が情報が正しいかどうかの判断の基準としたものは、その情報の「頻出度」です。どんな情報でも安易に信用せず、多くの「判断材料」を元に自分なりの判断をすることの重要性を改めて感じました。

情報の正しさを判断するには、その根拠となる知識が必要です。多角的なものの見方、考え方ができなくてはなりません。

「判断材料」は、虚実入り乱れている情報の海で役立つ、いわばコンパスのようなものです。そして、そのコンパスを使いこなし、正しさを見極めることの出来る知識を身につけることが必要になってきます。

これからは更に情報通信技術も発達していき、今よりも多くの情報が乱れ飛ぶ世の中になるはずですが、そんな中で、流れてくる情報に惑わされることなく、疑いの目を向け、信用できると思った情報を元に確かな考えをもって、行動しなければなりません。


どこからの情報だろうと関係なく、安易に信じないでよく考えて自分の考えに取り入れ、より柔軟な考え方ができるようになりたいと私は思っています。そんな力が、これからの情報社会に於いて必要になってくるでしょう。



成功にないものは 失敗にある

本庄西中学校2年

と 鄧 子良
ずりょう



私はバスケ部で、一回も公式試合に勝ったことがありません。ですが、私たちのチームには、ほかのチームには味わえないものを感じています。それは失敗を繰り返した時の悔しさ、悲しみ、そして勝利への渴望です。

私は小学校の時からバスケが好きで、バスケ部に入部しました。仲間も先輩もみんな元気で優しい人で、部活の雰囲気はとても良く、シュートを決めたときには「ナイス」外したときには「ドンマイ」と声を掛けてくれました。当時の練習メニューはコーディネーションといい、ハンドリング技術の上達より、運動神経を高める運動が中心でした。そして私たちが迎えた初めての大会。絶対に勝ちたいという思いを持ち、試合に臨みましたが、緊張のせい、初歩的なミスを多く犯し、試合に敗れました。私たちの努力が報われなかったのではない、自分たちは弱いのではない、そう疑いながら涙を流したのを今でも覚えています。それから私たちは次の一年生大会に向けて試行錯誤をたくさん繰り返し、一生懸命に練習しましたが、ドラマのような逆転劇を起こすことはできませんでした。私たちは、また負けたのです。無力感と悔しさが頭の中に満ち、自分たちの弱さに立ち向かわなければならなくなったのです。

強くなりたい。その思いがバスケ部の誰しもの頭の中に刻まれた一日でした。そこで私たちのコーチから、「試合は祭りだ、楽しんでやれ。そして、勝ちたいと思いながら闘うのではなく、負けたくないと思って闘うんだ。」という言葉をもらいました。その言葉のおかげで、結果がどうであれ、心の底からバスケに打ち込むことが出来れば、決して無駄なことではないという自信が付きました。

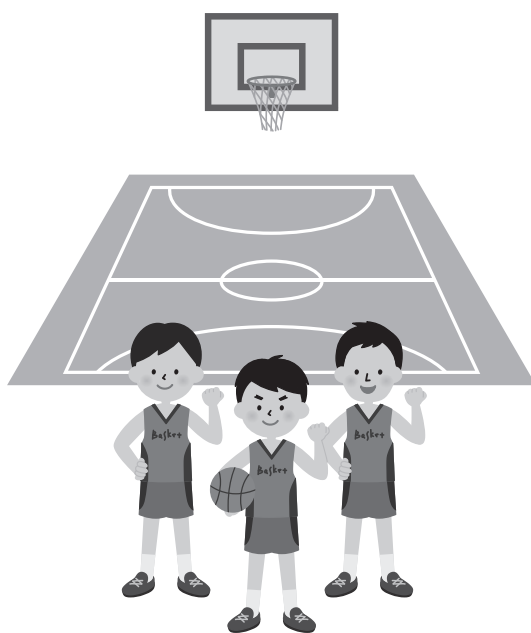
私たちは負け続けていましたが、一年間を通して技術の上達は勿論、上下関係から始まり、みんなで試合に負けないという目標に向かって頑張る過程で、物事に対する考え方や周囲と協調することについて学びました。今は二年生になり、三年生の先輩は引退し、新たに一年生が入ってきて、私たちは教える側になりました。練習メニューもディフェンス中心からオフェンス中心に変わり、より持久力とチームワークが試される戦法に切り替わりました。そして、新人戦で負けた児玉中と練習試合を組むことになり、結果はまた負けてしまいましたが、点差は以前よりも縮められました。何より、今回の失敗から、私たちは挫折感ではなく、成長したという感動を味わえました。

私は負け続けました。同時に、成長し続けました。私たちは、失敗を恐れることなく、雑草のように踏まれても折れない、失敗しても諦めない最高のチームだと思います。

バスケの神様、マイケル・ジョーダンの言葉で、「私は九千回以上シュートを外し、三百試合に敗れた。人生で何度も何度も失敗してきた。だから私は成功したんだ。」という言葉があります。私たちも同様に、失敗から成功を見つけ出すことが出来ると思います。

私は、失敗を繰り返す中、学んだことがあります。

それは、「成功にないものは失敗にある」





力を自分のものへ


本庄西中学校2年

さとう みか
佐藤 実花




私は、「変えたいこと」があります。それは一年のとき、学級委員として変えることが出来なかった、ある後悔から生まれました。

西中学校では「三分前着席」の呼びかけをしています。本来は学級委員と班長が行うことですが、実際に呼びかけていたのは学級委員だけでした。その事実に気づいたにも関わらず、私は学級委員が呼びかければ、全員が座ってくれているから大丈夫という理由で自分を勝手に納得させ、呼びかけない班長と向き合うことをせず、課題から逃げていました。そして現在、二年目の学級委員になり、班長も昨年のメンバーが過半数を占める中で、知っている顔がそろっていると安心した反面、去年の不安が高まってきました。班長も学級委員も活動内容は去年ときほど変わりませんが、やはり恐れていた呼びかけをしないという事態が起きてしまいました。班長に「呼びかけよう。」と声をかけても反応を示さず、挙句の果てにはチャイムが鳴る直前に教室へ戻ってくるということもありました。私は、班長をまとめられないのは自分の責任だといつしか自分を責めて考え込んでしまい、体に異変が出てしまいました。そんな私を心配し、手を差し伸べて下さった先生が居ます。今思えば、その先生と担任の先生の力が無ければここまで行動出来なかったと思います。私は、その先生に、「自分だけが頑張るのではなく、全体が少しでも努力することで平均値が上がり、改善されることが増える。」ということと、「考え込む前に悩みを打ち明けなさい。」という話を受けて、「私には先生方がついていて。」「また悩みを抱えても支えて下さる。」そして、「悩んでも良いんだ。」と心が軽くなりました。この確信が自分の自信へとつながり、担任の先生へ今までのことを打ち明けることが出来ました。先生は一对一で班長と対話し



て下さることになりました。また、学年主任の先生は学年委員会といって全クラスの班長が集う会議を臨時で開いて下さったり等、たくさん支えて下さいました。先生方のお陰で、今では班長や学級委員はもちろんですが、それ以外のクラスメイトも呼びかけをしてくれるようになり、以前よりも三分前行動への意識が「変わった」のです。この状態を維持するためにも、定期的な会議が必要になってきます。その際に、「『出来ない』を否定するのではなく、私たちが周りに手を差し伸べ、クラスのみならず『このクラスで良かった』と言ってもらえるようなクラス作りをしよう。」と学級委員会で改めて目標を掲げました。このゴールへと突き進むには、さらなる大きな壁にぶつかるはずですが私には、クラスメイトや先生、そして同じ志をもち、互いに信じ合える「信友」が居ます。壁に全力でぶつかり、自分の限界に挑戦していきたいと思っています。また、新しいことにチャレンジするとき、一歩目は中々出ませんが、二歩目からはどんどん進むことが出来ます。その一歩目を大切な仲間と、そして支えて下さる先生方と一緒に進んでいきたいと思います。そして、自分が後悔しない学年へと「変えていく」、出来ないを出来るへと「変えていく」、その力は自分にも、周りにもあると思います。自分の信念と周りを信じる気持ちが私を成長させてくれる力であり、源でもあります。この力を武器にし、「変えたい」から、「変えた」と言えるようにたくさん行動していきたいです。そして、私が周りに教えてもらった他人を思いやり、尊重すること。最後に、今しか経験できないことに、とことん挑戦し「力を自分のもの」にしていきたいです。





コロナウイルスで 気づいたこと

本庄南中学校 1年

いとう けいご
伊藤 敬吾



「緊急事態宣言を発令します。」

この一言で、私達の生活は大きく変わった。多くの企業がコロナの影響を受け、私達に多大な影響をもたらした。

私も、その影響を受けた一人だ。学校が休校になり、友達作りもままならないまま、二ヶ月もの長い時間がたってしまった。やっと全員で集まることができたのに、コロナ対策によりマスクは着けなければならず、給食も、話をしながら楽しく食べることがなくなった。去年までは、3密を気にせず友達と接することができた。だが、今の状況ではこれまで通りに過ごすのは難しい。ただ、「コロナのせいで……」とマイナスな気持ちになるだけではなく、プラスにとらえる事もあった。きっと、コロナでプラスの事なんてあったらどうか、と思う人もいるだろう。だが実際に、私にはいい事があった。それは、多くの時間を、自分の好きな事にあてられたことだ。私は、文章を読むのが好きなのだが、学校や塾で忙しく、本や新聞などを読むのがおろそかになっていた。私は、良い機会だと思い、本や新聞を時間がゆるす限り読み続け、多くの文字や情報にふれた。その結果、世界で今起きている事やコロナについてなど、多くの事を知ることができた。そして、私は気づいた事が二つある。一つ目は、人に感謝することである。このコロナウイルスの中、医療従事者の方々は、感染と隣りあわせでも、日々命の最前線で戦っている。なぜ、医療従事者の方々は戦っているのだろうか。また、警察官や消防士の方々は、コロナによって世の中が混乱している中でも、私達の安全を守るために、日々二十四時間働いている。なぜ、この方々は日々戦っているのだろうか。それは、まぎれもなく私達のためだと思う。誰もが今、同

じ苦しみを受けている中、この方々は本気でこの状態を変えようとしている。本当に感謝しなければならない。また、感謝することは自分のためにもなる。例えば、お店でご飯を食べ終わった時に、

「おいしかったです。ありがとう。」

と言った場合、もちろん相手はうれしいと思うが、自分も幸せな気持ちになるだろう。人に感謝することは、自分も幸せになれる行いだと思う。私は、働いている人達に感謝ができる人は、必ず良い事が起きると思っている。二つ目は、自分がしたい事を行動に移すことだ。コロナウイルスにより、多くの事が制限されている中、目標も無くなり、学校から出された宿題と、前に買った本を何度も何度も読み返しながら、日々を過ごしていた。多くの言葉にふれることはできたが、心から楽しいと思えるような出来事は起きなかった。ある日、ふとコロナが無くなったら、私は今頃何をしているのだろうかと思い、考えてみた。考えるのは簡単で、すぐにいくつか思いついた。他の人にサプライズをする、まだ一回も学んだ事がない事を極めるなど、いろいろ思いついた。ただ、思いついた事は、コロナウイルスがまだ感染拡大していなかったときでもできた。なぜできなかったのか。それは、自分自身に言い訳をしてやらなかったからだ。何々があるからこれはできない、今は時間がないなど、いろいろと自分に言い訳をしてきた。ただ、コロナウイルスにより行動が制限された中、自分に言い訳してきた事を、後悔している。もし、行動に移すことができたら、今、何か新しい事を始められていたかもしれない。私は今後、自分には言い訳をしたくない。今日から、やるべき事を行動に移し、後で後悔しないよう生きていきたい。

今年にはコロナウイルスにより、いつもと違う一年になっている。だが、この一年をどう過ごすかによって、今後の人生が大きく変わってくると私は思っている。コロナウイルスに絶対負けない、その思いを胸に日々を過ごしていきたい。





糸

本庄南中学校2年

なか じま あ ゆ こ
中 島 逢 柚 子



みなさんは、出会えて良かった、という人はいますか。心に残る、大事な記憶はありますか。私はこの、人や記憶の繋がりを、「糸」のようだと思います。そしてこの糸は、真っ直ぐな生き方を貫くために欠かせないものだと思っています。なぜ、そう感じるのか、それは私の過去の経験が影響しています。

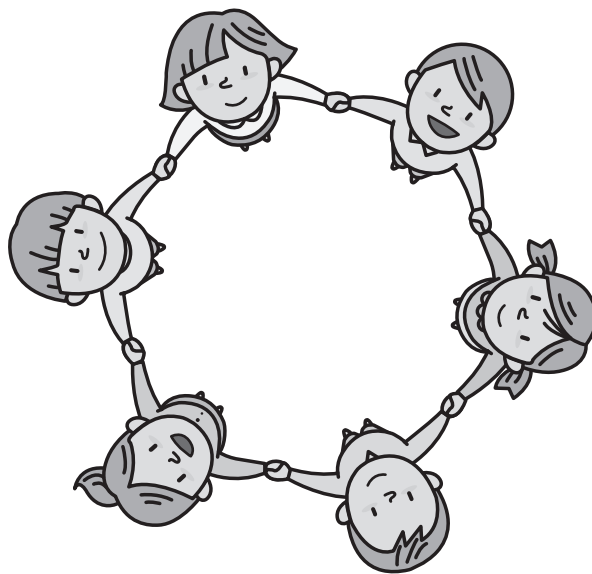
以前、私は傷つくことを言われ、そこから自分を出すことが怖くなりました。そして、殻に閉じこもるようになってしまいました。するとだんだん、糸の繋がりが切れていきました。まるで、自分と繋がった糸を燃ったとき、はしからほつれていくように、そのときは心に穴があいたようで、記憶の糸も細く、鮮やかさもありませんでした。でも人は、繋がりがあからこそ、楽しく、時には辛いことも乗り越え、生きていくのだと思っています。私はまた、そうした日々を送りたいと思い、再び、自分らしさを求めるようになりました。それゆえ、私は少しずつ、また自分を出すようになりました。すると、糸がどんどん繋がっていきようになりました。そして繋がった糸から鮮やかな記憶も生まれ、特に助けてもらったこと、頑張ったことは太い糸となり私を支えてくれました。また、そんな中、なりたい自分も見えてくるようになりました。そして私は、気づきました。傷つくことを恐れ、糸を自ら切ってしまうより、糸を大切に生きていく方がより自分らしく、目標や夢に向かって進んでいけるということに。それはつまり、真っ直ぐな生き方を貫いていけるということです。

私はこの、糸が繋がっているという喜びを、より多くの人に知ってもらいたいとよく感じます。小学生のとき、身近にあまり友達ができず、さみしそうな転校生がいました。私は、

過去の自分と重ね合わせ、少し胸が痛みました。だから、勇気を出して声をかけました。すると話しているうちに、その子は明るく嬉しそうな顔になっていきました。それを見て、「糸を差し出して良かった。」と思いました。私はそのように、みんなが互いに糸を差し出し合うといいなと思います。もちろん、気が合わない子もいると思いますが、それは言い方を変えると、「違う考えを持った人」とも言えます。つまり、新しい発見をさせてくれる仲間と思うと、無駄な糸は一本も無いことに気づきます。

そして私は、糸を「差し出す」ことともう一つ、大事だと思うことがあります。それは、糸を「太くする」ことです。私は、この糸の太さの大切さを実感したことがあります。私が楽器のソロコンテストで体験したことです。私は一回目に出場したとき、いい練習ができず、本番でもうまくできませんでした。そのときは、練習してきた記憶の糸が細く、今にも切れそうでした。しかし、二回目の出場ではしっかり練習を積み、本番では納得のいく演奏ができました。一回目と違い、頑張ってきた記憶の糸が太く、少しのことではゆらぎもしませんでした。私は、この糸を太くする方法は、ただ一つ「努力」だと思っています。努力することで、様々なものに立ち向かったり、乗り越えたりした記憶が増えます。また、たくさんの人に支えられ、それが自分を助ける糸として、更に太く強くなります。この糸の支えで、ゆらぐことなく意思や姿勢を突き通すことができると思います。

これらのことから、「糸」は、一人一人の生き方を貫き、未来を明るく生きていくためにも、絶対に必要で、守るべきものだと信じています。





母の教えで 壁を越える

児玉中学校3年

さかもと さな
坂本 紗菜



私の将来の夢は、栄養教諭です。本校の栄養教諭の大矢先生をみていてとても楽しそう
で、生徒から「今日の給食もおいしかった」と言われてとてもうれしそうで幸せそうな顔
をしています。毎日みんなのことを考えて献立を立てて、約五百人分の給食を作る姿をみ
てかっこいいと思うようになりました。

そのため、大矢先生に栄養教諭のことについてたずねたところ、たくさん教えていただ
きました。栄養教諭になるには、「栄養士免許」と「栄養教諭免許」という二つの資格が
必要です。また、その二つの資格がとれるのは、大学、短期大学、専門学校のいずれかで、
それぞれの学校のカリキュラムをこなし、単位と資格を取得後、卒業することが必須だそ
うです。私は、栄養教諭は学校の先生でもあるので、国家試験という大きな試験を受けて
合格しなければいけないのかと思っていました。しかしそんなことはなく、指定された課
題に対して地道に努力を積み重ねていき、知識と経験を豊富にしていくことで資格がとれ
ることがわかりました。

地道に努力を積み重ねていくのには、普段の生活が一番大切であると思います。そこで、
私が日常生活で意識して行っていることがあります。自分からあいさつをすることと、困っ
ている人や人手が足りないところのサポートをすることです。私の母がそうでした。保育
士をしていた母は、同じ職場の先生方や父兄の方たちにいつも自分からあいさつをしてい
ました。母にあいさつをされた人はみんな笑顔であいさつを返していて、「あいさつは人
を笑顔にできるんだ」と思いました。困っている人にもすぐ気がついて、お手伝いをした
り助けたりしていました。そんな母は、私に二つのことを教えてくれました。

一つは誰にでも優しく親切にすることです。人に親切にすると相手が喜んでくれて、それがいつか必ず自分にも返ってくると教えてくれました。そうして人間関係を築いていき、人を大切にしていくなのだと思いました。もう一つは「ありがとう」と「ごめん」をすぐ素直に言うことです。「ありがとう」は人に心から感謝する気持ち、「ごめん」は人に正直に謝る気持ちが大切だと教えてくれました。簡単に思うかもしれませんが、すごく難しいことです。いざ言うときになると恥ずかしくなってしまう、なかなか言えません。私も、心の中では「ありがとう」と感謝していたり、「ごめん」と申し訳なく思っていたりしても、言葉にできないときがあります。ですが、それを声に出して相手に伝えることが、自分にとって相手にとってもプラスになると思います。

私の座右の銘である「神様は越えられない壁を与えない」という言葉のように、どれだけ時間がかかっても、努力し続ければいつか壁は越えられます。今この世の中は、新型コロナウイルスの影響で様々なことが制限されていたり、中学三年生、高校三年生は受験などにもハンデがあったりしています。そのため、どんなことにもモチベーションが下がってしまいます。しかし、「ピンチはチャンス」という言葉のように、今だからこそできることもあります。受験生の皆さん、今まで経験したことのないハンデを抱えていますが、このピンチをチャンスにして一生懸命努力し、受験を乗り越えましょう。そして私も、座右の銘のもと、栄養教諭になるという夢のため様々な壁を越えられるように、将来に向けて日々頑張っていきます。






将来のために

児玉中学校3年

ね ぎ し だ い き
根 岸 大 樹



僕は、将来教師になるという夢を持っています。小学生の時に、算数の難しい問題を解こうとしている友だちをよく手伝ったり、解き方を教えることがすごく楽しいと思い、中学生になって自分が将来就きたい仕事を考えた時、「楽しい」と思える仕事に就きたいと思いました。その時から、教師になりたい、と将来の夢を見つけました。その夢への思いを強めたのが、中学一年生の時の、職場体験でした。

体験先は、六年間通い続けた秋平小学校でした。児童としてではなく、教育実習生のような気持ちで体験に臨みました。三日間の職場体験で、授業の補助、プランターの洗浄や教材室の整理などの環境整備作業、六年生への中学校紹介をさせてもらいました。同じ職場で活動するクラスメイト全員で協力し、積極的に仕事に取り組みました。休み時間は校庭に出て、鬼ごっこやサッカーに混ざって児童と楽しく遊びました。中学生になってから休み時間に外で遊ぶ事も無かったので、懐かしい気持ちになりました。児玉中での三分前着席も忘れて遊びに夢中になっていたおかげで、チャイムが聞こえた瞬間、全速力で校内に戻った事を覚えています。

少し大変な仕事もありました。児童一人一人が花を植えるために使ったプランターの、汚れを落とす作業です。何十個もあったプランターを、一時間弱かけて磨き終えた後は、達成感でいっぱいでした。

僕がこの三日間で体験してきた仕事は、まだまだたくさんある仕事のほんの一部だと思います。児童の前に出る仕事、裏での作業など、小学校の先生達の事を考えてみると、かなり忙しいものだと思います。それでも、児童たちの将来を担う立場で、弱音を吐くわ

けにはいきません。

教師になる前も、なった後も、相当な努力、精神力、忍耐力が必要ではないかと考えています。

僕は、教師の中でも、小学校教師を目指しています。大学や短期大学に進学し、教職課程を取る場合、採用試験の勉強の他に、教育、介護の実習、ピアノや水泳などの実技も必要になることを知りました。

そうした課程を経て教師となった後も、A I化が進む教育現場に対応するため、研修、体験会などを通じて、柔軟に学び続ける姿勢を持つことが大切です。中途半端な気持ちは捨てて、全力でやるべき事に取り組む意識が大切なのです。

その土俵に立つための大事なステップである受験に向けて、これまでも、これからも、努力に努力を重ね、自分が目指す夢をつかみ取りたいと思っています。





未来に繋ぐ

本庄第一中学校2年

も て ぎ し おん
茂 手 木 紫 音



環境問題にはどんなものがあるか知っていますか。大気汚染や環境汚染など多くの問題がありますが、それぞれが深刻化していくと地球温暖化がどんどん進み、私達が将来生きていくうえで最大の壁になりかねません。

このままではいけない、そう気付かされたのは二つのことがきっかけでした。一つ目のきっかけは、学校での英語のスピーチの授業です。環境問題を英語で発表するという内容でした。発表のため調べた中で、インドの大気汚染の話は、深く私の胸に刺さりました。インドでは、PM2.5の濃度が最高レベルに達するほど大気汚染が深刻です。そのせいで空港では飛行機が飛ばず遅延が発生したり、市内の学校で休校が命じられたりしています。便利な生活を送っている私が当たり前のように学校に通える一方で、私と同じ年齢の子が環境問題のために学校に行けないと知ったとき、とても苦しい気持ちになりました。二つ目のきっかけは、その数日後にテレビ番組で国内の環境問題を目の当たりにしたことです。その番組は、四方を海に囲まれた自然豊かな無人島から有人島に到着するまでの時間を競うバラエティ番組でした。無人島なのにペットボトルが海岸に散乱し、出演者が何百本というペットボトルを回収する場面があり、見終わったときは複雑な気持ちになりました。遠く離れた無人島にも環境汚染が広がっており、その原因を作ったのは私達人間です。ですが、出演者が数時間で島の環境を大きく改善したのを見て、勇気をもらいました。この二つのことがきっかけで、環境が悪化していく速度を緩めるため、何か取り組まなければならないと強く感じました。

今年はコロナウイルスの影響で授業がオンラインとなり、その中で「地球の環境を守る」

ための授業を体験しました。まずは、ごみを減らす試みです。「ハンカチ」を使って簡単なマスクを作るというもので、実際にオンライン授業の中で作ってみると、私にも気軽に出来るものでした。手作りマスクをつけることで、使い捨てマスクの使用が減ったことを実感しました。このとき、日常生活の中で、もっとゴミを減らすことができるのではないかという気付きがあり、意識して生活するようになりました。続いては、自宅にある食材を使って、料理をするという「エコクッキングの体験」でした。冷蔵庫の余った食材を見て、ワクワクしてキッチンに立ちました。油揚げを使った「ピザ」の完成とすっきりした冷蔵庫の中を見た時の嬉しさを、今でも鮮明に覚えています。そして最後に、体験的に一日エコを意識した生活を送りました。「資源の有効利用」を合言葉に電気、ガス、燃料などの削減方法と「もったいない」生活の取り組みに挑戦しました。これを通して、エコを意識した前と後で生じた「二酸化炭素削減量」の大きな差に驚きを感じ、これからも続けていこうと心に決めました。

地球温暖化対策は、私達一人ひとりの心がけが大事だと思います。私達が小さなことを積み重ねていけば、大きな成果になります。地域活動に積極的に参加したり、資源の再利用をしたりして、周りとの協力しながら地球環境を守る活動をしていきたいです。

私は、無駄のない生活をするには必要だと確信しています。百年後千年後の子孫に残す負の遺産を少しでも減らすためにも、今できることを徹底して行っていくつもりです。ですが、今ある科学を全て捨て去り、発展を全て止めることはできません。今私達に必要なのは、これまでの生活を振り返り、できるだけ無駄をなくすこと、それに加えて、科学をどんなふうにするべきか考えることなのではないでしょうか。今、私は中学校で幅広く色々な教科を勉強しています。環境問題について考え始めてから、科学の分野にも興味をひろげはじめたところです。明るい未来と一緒に歩いていく自分であるために、これからも学び続けます。



社会を支える 「ありがとう」

本庄第一中学校2年

なか お ゆ い
中尾 優衣



私は、たくさんの人を支え、環境を守るボランティアの大切さを主張したいと思います。「ありがとう」という感謝の言葉で溢れるボランティアの活動を体験したことを通して、様々な場面で懸命に活動しているボランティアの方々の思いについて考えてみました。

昨年令和元年十月、大型台風十九号の影響で川が氾濫し、住宅の全半壊等四千件、死者九十名と大きな被害をもたらしました。私は、それによって汚れてしまった堤防周辺のゴミ拾いのボランティアに参加しました。地域のスポーツクラブ活動の一環として半ば強制でやらされる形だったので、初めは「どうして私がやらなくてはいけないのだろう。ボランティアなんて時間や気持ちに余裕がある人がやるものだ。だったら私は、ゴミ拾いなんてしてないで家で勉強していたいな。」とやる気がなく不満に思っていました。しかし、私と同じく参加していた方々の姿を見てそんな思いはなくなりました。地域や環境、そこに住んでいる人々のために、みんなが心を一つに頑張っている様子が私には輝いて見えました。中には、高校受験の勉強で忙しい中学三年生も参加していて、私と同年代の人の意識の高さを感じました。そして気が付きました。自分がどれだけ自己中心的な考えをしていたかに。私は自分が恥ずかしくなり、その後は「誰かのためになつたらな。」と一生懸命黙々とゴミを拾いました。流されたゴミの量はとても多く、準備したゴミ袋が足りなくなり別の日に二回目を実施することになりました。その日拾ったゴミの量は、トラック一台では足りませんでした。私は大量のゴミに驚き、そんな膨大な量のゴミを文句一つ言わずに拾うボランティアの方々の偉大さを思い知りました。

「おー、綺麗になったな。助かったよ。ありがとう。」

ゴミ拾いが終わった頃、近くを通ったおじいさんに言われた言葉です。日常の中の何気ない一言ですが、私は今でもこの言葉が耳に残って忘れられません。この言葉をかけられた時、胸に広がる温かさを感じました。その時私は、ボランティアの方々の思いについて何となくわかった気がしました。

私は今、お祭りやマラソン大会の手伝いなど簡単な地域のボランティア活動に積極的に参加するようにしています。たとえどんなに小さな活動でも、自分にできることは一生懸命やろうと取り組んでいます。自分がやったことはきっと誰かのためになる、誰かの笑顔になると信じているからです。自分が誰かの役に立っていると思うと、胸がはずんで自然と頑張れます。

「ボランティア」の意味は、自分から進んで社会活動などに無償で参加する人だそうです。今までの私なら面倒に思うだけでしょ。ですが、今は違います。私が行ったことを誰かに喜んでもらう充実感や感動は、ボランティア活動をして得られたものです。初めてやったボランティアは、「ありがとう」と誰かに言われたことで、ゴミ拾いをした場所だけでなく、自分の心も綺麗になった気がしました。ボランティアは無償で行うものと言われていますが、私はその日、頬が自然と緩んでしまうような温かい何かをもらって家に帰りました。それは、自己中心的に考えていたときには経験したことがないようなときめきで、私にとって、とても大切なものだと感じました。

私は将来、看護師になりたいと思っています。義務として仕事をこなすのではなく、患者の方やそのご家庭の役に立ちたい、喜びに繋がりたいという思いを持ち、一人でも多くの人の体と心の支えとなれるように働きたいです。

誰かのために活動することによって、「ありがとう」という多くの人の温かな思いで溢れる社会になることを願っています。





青少年健全育成標語 入賞作品

本庄市青少年育成市民会議が市内全小・中学校より青少年健全育成標語を募集したところ、今回は3,094点のご応募をいただきました。どの作品もすばらしいものでしたが、市民会議で厳正に審査した結果、次のように最優秀作品2点、優秀作品15点を決定させていただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。

令和2年度 青少年健全育成標語入賞作品 (小学生の部)

最優秀作品 (小学校)

北泉小学校 5年 ^{さかもと}坂本 ^{たける}健尊
学校と 地いきと家庭で ONE TEAM!

優秀作品

本庄東小学校 5年 ^{わたなべ}渡邊 ^{こうた}公太
マスクでも 目と目で通じる 親子のきずな

本庄東小学校 6年 ^{ふくしま}福島 ^{さえ}沙依
見直して 自分の行動 もう一度

本庄西小学校 6年 ^{わかばやし}若林 ^{めい}萌衣
つらいとき がまんしないで 言ってみよう

旭小学校 6年 ^{しおばら}塩原 ^{せりな}瀬里奈
大丈夫 救うその手は 優しい手

本庄南小学校 6年 ^{おか}岡 ^{ゆうせい}勇成
「ありがとう」 人の笑顔は 心の支え

中央小学校 5年 ^{いけだ}池田 ^{とういち}統壺
「だめだよ。」と 止めるあなたは やさしい心

中央小学校 5年 ^{きのした}木下 ^{ゆい}結衣
イライラしないで 子どももいろいろ あるんだよ

令和2年度 青少年健全育成標語入賞作品 (中学生の部)

最優秀作品 (中学校)

児玉中学校 3年 かわの河野 そうま奏真

君の手は 誰かを救う 希望の手

優秀作品

本庄東中学校 1年 たしろ田代 ゆい結唯

地域の輪 広げて育てる 優しい心

本庄東中学校 1年 こじま小嶋 しずく雫徠

つながうよ 君の輪 僕の輪 命の輪

本庄西中学校 1年 おおい大井 りりか梨々香

感じよう 声で言えない SOS

本庄南中学校 2年 やまもと山本 ゆりか

未来に残そう まちのみんなの いい笑顔

児玉中学校 1年 まつうら松浦 なこ菜瑚

上向いて 輝く夢へ 手を伸ばそう

本庄東高等学校附属中学校 2年 こばやし小林 りょうま竜馬

あいさつで うみだす きずな 宝物

本庄第一中学校 1年 ごみ五味 あいり愛梨

あいさつが 相手の心に 傘をさす

本庄第一中学校 2年 いしげき石関 わらく和楽

ありがとう 世界を変える 愛言葉



青少年・青少年育成者等 功労表彰

青少年の健全育成に努め功績顕著な者、青少年のうち他の模範となる者及び他の規範となる活動を継続的に行っている青少年団体等を表彰し、その実績を広く市民の皆様にご紹介いたします。

令和2年度 本庄市青少年育成市民会議 青少年・青少年育成者等功労表彰受賞者(団体)一覧

●青少年育成者の部

- ・井上 勉いのうえ つとむ (本庄市子ども会育成会連合会 副会長)

本庄市子ども会育成会連合会副会長及び指導者委員として長年にわたり指導的立場にあり、各種行事を通じて本庄市の子ども達のみならず育成者への指導、助言等を行うなど、青少年健全育成のために大きく貢献している。

- ・吉田 貴之よしだ たかゆき (本庄市子ども会育成会連合会 指導者委員)

本庄市子ども会育成会連合会副会長及び指導者委員として長年にわたり指導的立場にあり、各種行事を通じて本庄市の子ども達のみならず育成者への指導、助言等を行うなど、青少年健全育成のために大きく貢献している。

- ・飯島 秀司いじま ひでし (本庄ミニバスケットボールスポーツ少年団 指導者)

本庄ミニバスケットボールスポーツ少年団の指導者として、長年にわたり小学生に指導を行っている。平成20年に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。バスケットボール指導の他に、レクリエーション等にも積極的に参加し、子ども達との交流、親睦を図るなど、青少年の健全育成に貢献している。

- ・井上 正弘いのうえ まさひろ (本庄エンゼルススポーツ少年団 監督)

本庄エンゼルススポーツ少年団の育成コーチ、ヘッドコーチを経て現在は監督として、長年にわたり小学生に野球の指導を行っている。平成20年には日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得し、熱血指導で多くの野球少年を育成するなど、青少年の健全育成に貢献している。

- ・大上 英男おおがみ ひでお (本庄市空手道スポーツ少年団 指導者)

本庄市空手道スポーツ少年団の指導者として、長年にわたり幼児や小・中学生に指導を行っている。平成21年に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。本庄市スポーツ少年団の本部委員を務め、団員と保護者による地域スポーツ活動への参加を促進するなど、青少年の健全育成に貢献している。

- ・中林 勤なかばやし つとむ (児玉少年野球クラブスポーツ少年団 指導者)

児玉少年野球クラブスポーツ少年団の監督・コーチとして、長年にわたり小学生に指導を行っている。平成19年に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。野球技術だけでなく、あいさつや礼儀等も熱心に指導し、青少年の健全育成に貢献している。

・^{えんどう}遠藤 ^{つかさ}司（少林寺拳法 本庄スポーツ少年団 指導者）

少林寺拳法 本庄スポーツ少年団で、設立以来長年にわたり、小学生から大人まで指導を行っている。平成21年度に日本スポーツ少年団認定員指導者を取得し、市内全ての少林寺拳法の大会運営に関わる貴重な存在である。少林寺拳法は勝敗を争う競技ではないという視点に立ち、その教義、拳技を以て人づくり、仲間づくり活動に尽力し、青少年健全育成に貢献している。

・^{あとう}阿藤 ^{ともりの}知憲（本庄北泉ジェッターズスポーツ少年団 コーチ）

本庄北泉ジェッターズスポーツ少年団で、コーチを経て、平成28年まで監督、現在は再びコーチとして、長年にわたり小学生に軟式野球の指導を行っている。平成21年に日本スポーツ少年団認定員指導者を取得。平成28年まで本庄市スポーツ少年団の代議員としても尽力し、その活動を通じて青少年の健全育成に貢献している。

・^{やまざき}山崎 ^{たかし}尚（本庄北泉ジェッターズスポーツ少年団 監督）

本庄北泉ジェッターズスポーツ少年団で、コーチを経て、平成29年から監督に就任。長年、小学生の軟式野球の指導にあたっている。平成22年に日本スポーツ少年団認定員指導者を取得。平成29年から本庄市スポーツ少年団の代議員としても尽力し、その活動を通じて青少年の健全育成に貢献している。

・^{すなが}須長 ^{あきら}明（本庄北泉ジェッターズスポーツ少年団 埼玉県スポーツ少年団野球部会公認審判員）

本庄北泉ジェッターズスポーツ少年団の指導者として、平成21年に日本スポーツ少年団認定員指導者を取得し、団審判部長を経て、郡市公認審判員、埼玉県スポーツ少年団野球部会公認審判員を歴任。軟式野球だけでなく、他者への思いやりの心を養い、生活習慣の指導も行うなど、青少年の健全育成に貢献している。

●団体の部

・こだまお話しの会（平成19年4月1日 設立）

平成19年4月に行われた「読み聞かせ研修会」を受講した方々により、今後の図書館活動に役立つことを目的として発足。

子どもの活字離れが問題とされる中、本の楽しさを伝えるため、長年にわたり定期的なボランティア活動を行い、青少年の健全育成に寄与している。

・語りの会 ことより（平成20年 設立）

平成20年1・2月に本庄市立図書館児玉分館で行われた、「子どもに語るおはなし講習会」を受講した方々が、「語り」をより深く勉強し、今後の図書館活動に役立たせることを目的として発足。

「すばなし」などのお話を語ることを通じて、心豊かな子どもを育むことを大切にしたいボランティア活動を続け、青少年の健全育成に貢献している。

・よみきかせサークル「本庄ほんの会」（昭和55年11月10日 設立）

公民館で開催された「よみきかせ教室」講座の受講者を中心に、「よみきかせサークルつきみ草」を結成。図書館を拠点に読み聞かせの活動を行う。

その後、「本庄ほんの会」に改名し、子ども達に本の魅力を伝えるボランティア活動を現在も継続し、青少年の健全育成に貢献している。

・本庄アタッカーズ（平成13年4月1日 設立）

本庄市スポーツ少年団に登録し、その理念に基づき、設立から19年間、保護者を中心とした育成母集団と連携し、地域の子ども達にドッジボールの指導を行っている。平成23年、平成29年には、埼玉県新人戦で優勝するなどの実績を残しているほか、競技以外でも、他者への思いやりの心を養い、生活習慣や健康管理の指導にも尽力しており、青少年の健全育成に貢献している。

・本庄ジュニアバドミントン シャトルスターズスポーツ少年団（平成14年 設立）

本庄市スポーツ少年団に登録し、その理念に基づき、設立から18年以上にわたり、保護者を中心とした育成母集団と連携して、地域の子ども達にバドミントンの指導を行っている。全国小学生バドミントン選手権大会出場などの実績を残し、その活動は青少年の健全育成に貢献している。

本庄市青少年育成市民会議の 主な行事及び活動の紹介

5月 青少年育成埼玉県民会議総会

6月 本庄市青少年育成市民会議総会

7月 青少年非行防止街頭キャンペーン
駅周辺・商業施設
(合同開催：社会を明るくする運動
本庄市実行委員会・埼玉県)

8月 第1回青少年非行防止夜間パトロール
本庄駅・児玉駅周辺巡回



【令和元年度 青少年非行防止街頭キャンペーンのようす】



【令和元年度 青少年育成管外研修のようす】

10月 青少年育成管外研修
(対象：中学生 研修場所：塙保己一
史料館ほか東京都内の施設)

” 第2回青少年非行防止夜間パトロール
本庄駅・児玉駅周辺巡回

11月 青少年健全育成のつどい
(青少年地域活動発表会・青少年の主張
発表会・主張発表者表彰・青少年健全
育成標語入賞者表彰・青少年育成者等
功勞表彰)

12月 青少年育成推進員学校訪問

2月 第3回青少年非行防止夜間パトロール
本庄駅・児玉駅周辺巡回

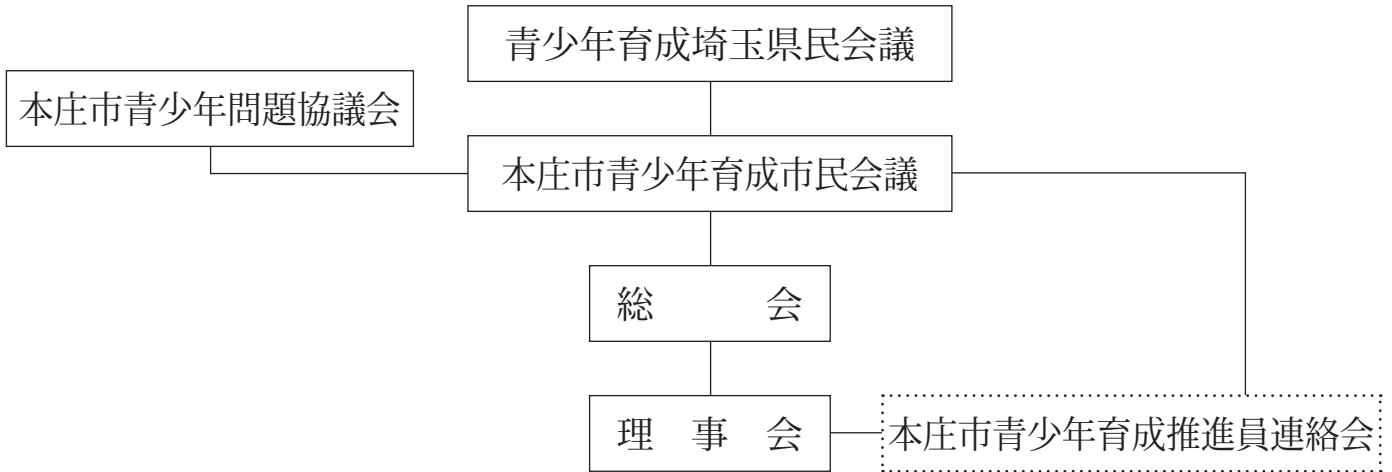
” 親子名作映画劇場
(会場：本庄市民文化会館・本庄市児玉文化会館セルディ)



【令和元年度 青少年健全育成のつどいのようす】

※新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の行事及び活動は規模が縮小または中止となっております。

本庄市青少年育成市民会議組織図



No.	団体名	評議員	理事
1	本庄市子ども会育成会連合会	2	1
2	ボーイスカウト本庄第1団	2	1
3	本庄市スポーツ少年団	2	1
4	(公社)こだま青年会議所	2	1
5	本庄市民生委員・児童委員協議会(主任児童委員)	2	1
6	本庄市婦人会	2	1
7	本庄地区保護司会本庄支部	2	1
8	児玉地区保護司会児玉支部	2	1
9	本庄市更生保護女性会	2	1
10	本庄市児玉町更生保護女性会	2	1
11	本庄上里地区学校・PTA・警察連絡協議会	2	1
12	児玉郡南部地区学校・PTA・警察連絡協議会	2	1
13	熊谷人権擁護委員協議会本庄部会	2	1
14	本庄市自治会連合会	2	1
15	本庄ライオンズクラブ	2	1
16	本庄ロータリークラブ	2	1
17	本庄商工会議所	1	1
18	本庄市老人クラブ連合会	2	1
19	本庄市福祉事務所(地域福祉課)	2	0
20	本庄市青少年育成推進員連絡会	0	26
21	本庄市青少年相談員協議会	2	1
合計人数		39	45



毎月第3日曜日は 「家庭の日」

毎月第3日曜日は「家庭の日」

「家庭」は、青少年を健全に育成するための最も重要な生活の基盤です。青少年育成埼玉県民会議では、家庭と家族一人ひとりが愛情と信頼で結ばれ、心のふれあいを図ることのできる場とするため、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めています。

本庄市青少年育成市民会議では、青少年の健全育成を目的として、「家庭の日」の普及を推進しています。また、各種青少年育成団体相互の連絡協調を図りながら、社会環境の浄化の推進及び青少年の健全育成活動を推進しています。